

第12回兵庫県子ども・子育て会議 議事概要

日時：平成28年5月26日

場所：兵庫県私学会館

○会長

保育は子育ての支援という意味だけではなく、よりよい子どもの育成環境を提供する場でもある。両親の子育てに問題があっても、保育所に行かず、密室の中で両親とだけで暮らしているという状況はかなり危ない。そういう意味でも、保育所の子育てとしての役割は大きい。

○委員

「子ども・子育て未来プランプログラム2015」の達成状況は、数字や人数だけではなかなか理解できない部分があるので、その中身について少し評価が伴う工夫ができれば、目で見える形で非常に良い。

○委員

男性の育児参加の時間を5年で倍にするというのは、数字だけではストーリーが見えない。具体的に倍にするための取組を目で見える形で見せていただきたい。

○委員

産後すぐの乳児との接し方をフォローすることが大切で、それが児童虐待防止につながっていく。産後ケアの支援体制を構築していく必要がある。

小学生は放課後児童クラブが6時ごろまで預かってもらえるが、それ以降、親が帰ってくる7～8時ごろまでの居場所がない。そのような隙間の時間を埋めるような施策を整理していただきたい。

子ども食堂では、無料で食事ができるという本来の事業目的とは異なった利用が広がっている風潮がある。せつかくのいい事業でも、どのような意図で、どのような人を対象にしているかを精査し、ニーズに合った人へ政策が届くようなチェック機能が必要である。

○委員

子どもたちの日常生活に遊びの場を提供することは欠かせないことを踏まえ、放課後児童クラブについては、単に預けられればいだけでなく、子どもたちがのびのびと遊べる場所と機会の提供が重要だ。

○委員

思春期の子どもたちの不登校やひきこもり等の心の問題に力を入れてほしい。

また、人工妊娠中絶や性感染症等の性に関する問題、薬物乱用、自殺など、思春期から成人期に向けた保健対策の推進について、教育委員会と連携しながら力を入れていただきたい。

○会長

虐待は経験していないが、不適切な家庭環境にいた思春期の子どもたちの対応は難しく、子ども自身も相談しづらいといったケースを多く見受ける。そのような、狭間にある子どもたちをどのようにサポートしていくかは一つのテーマである。

○委員

お父さん応援フォーラムについて、より多くの企業に参加を呼びかけるとともに、土・日曜日の開催など父親へ配慮して実施いただきたい。

また、全ての幼稚園にも一時預かりが実施できることになったと認識しているが、アナウンスが市町からは全くない。利用者へもっと案内していただきたい。

○委員

子どもの居場所づくりの面では、かなり取組が進んできたと思うが、これからは加えて、子どもたちの課題解決をどう支援するかという、子どもの「学び直し」に焦点を当てて施策を検討いただきたい。

また、乳児院に産後ケア支援体制の整備ができれば、虐待や産後うつの防止など育児の最も重要な部分が支援できるのではないのか。

○委員

発達障害がある子どもたちへの支援方策について、プランの中でも、さらにご配慮いただきたい。

発達障害は特別支援教育までは必要ないかもしれないが、対応によっては、その後の健全な成長が期待できる場合もあるので、各自治体でいろいろ工夫した取組をされていると思う。ただ、手厚い支援ができる自治体と、そうでない自治体とに少し差があるかもしれない。

どのような発達障害があるかを的確に判断し、それをもとに方向性を判断していくのが一番大事だが、そこから様々な支援につなげるネットワークが全国的にできておらず、厚労省でも検討を始めているようである。

○会長

県では児童虐待等対応専門アドバイザーを設置しているが、今後、専門的な知識、経験を持った専門家がより一層必要になってくる。そもそも大学等で虐待を専門的に勉強する人はおらず、その分野の人材を育てるのは難しいが、ぜひ若い

人材を発掘し、虐待の専門領域で活躍できるよう育て上げるような取組をしていただきたい。

○委員

子どもの貧困問題について、親に任せていても、御飯が食べられない子どもが増えており、1人で御飯を炊ける子どもを育てる取組を進めている。

○委員

ある大学がスマートフォンから完全に離れる1泊2日のオリエンテーションをしており、このようなプログラムをあえてつくっていく必要があると認識している。

また、親のスマートフォン依存も課題で、親に対する学びの場を考える必要がある。

○委員

発達障害について、西宮市に「こども未来センター」が新たにできたが、相談案件が多く、なかなか予約ができないそうだ。県や市町での相談窓口の充実が大切だ。